

ふれあい おおつ

159

URL <http://otsu.la.coccan.jp>
Eメール ohtsu-shakyo@jcom.home.ne.jp

大津地区社会福祉協議会
発行人 会長 嶋口 司
編集 広報部 会
横須賀市大津町3-20-16
Tel・Fax 046-834-2487
印刷 文明堂印刷株式会社



159号 目次

- 1 なかよしひろば
- 2 福祉標語（馬堀小学校）
- 3 社明講演会・歩こう会など
- 4 ひとり暮らし高齢者交流会
- 5 障がい者バス旅行交流会
- 6 いきいきサロン・ふれあい広場
- 7 オレンジカフェ
- 8 人生100年時代・お知らせ

なかよしひろば

0歳から未就学児と保護者を対象に自由遊び・手遊び歌遊び・読み聞かせなどをおこなっています。

場所：大津コミセン2階体育室

時間：10時～11時30分

今後の開催日

12月19日・2月20日



第35回福祉標語



今年度の福祉標語は、馬堀小学校にお願ひしました。

令和7年4月に走水小学校と統合し、新たな馬堀小学校として歩みを進めています。四季折々の変化を見せる山々に囲まれ、海岸からは、東京湾と富士山を望む豊かな自然の中で、子どもたちはのびのび学んでいます。

今回の福祉標語は、4年生が夏休みの課題として取り組んでくれました。10月上旬に大津地区社協の役員・関係者17名で選考を行い、最優秀賞には、石田成輝さんの「ありがとう うれしくなるね まほうの言葉」が選ばれました。

10月29日の表彰式は、中休み時間に行われ、嶋口会長から表彰状と賞品が授与されました。

表彰式のと、石田成輝さんにお話しを伺いました。「ありがとう」という言葉を使うと、言われた人が笑顔になるから、**ありがとう**は魔法の言葉だなんて思って標語にしました」と、少し照れながら話してくれました。また嶋口会長からは「福祉では、**助けてくれてありがとう**・**支え合ってお互い様でありがとう**というように、感謝の気持ちこそが福祉の基本です」とのお話がありました。

(児童福祉部会)



最優秀賞

馬堀小4年 石田 成輝さん



学校教育目標

まぼりっ子広場

最優秀賞

ありがとう うれしくなるね まほうの言葉

石田 成輝

優秀賞

おもいやり 一人一人の宝物

薄川 結衣

助け合い どんなときでも おもいやり

黒澤 慈喜

どうしたの その一言で 変わるから

品川結希奈

やさしさを 町のかたちに していこう

関川 瑛貴

支え合う みんなの力で 楽しい未来

高橋 真菜

あいさつで せいかかわる ところがはれる

徳永 悠伎

あいさつは 勇気をだして 声だして

戸村 海翔

助け合い ゆたかな心を 作ろうよ

野村 鈴

あいさつで えがおをつくる すてきだね

宮崎菜沙陽

ありがとう その一言が ぼくらをむすぶ

山口菜々美

馬堀小学校4年生のみなさんの作品です

社明講演会

第75回「社会を明るくする運動」講演会を7月22日、大津地区社会福祉協議会、大津地区連合町内会、保護司会が共催し、大津コミュニティセンターで開催されました。

今年、立正大学社会福祉学部教授の西村淳氏をお招きして、「人とのつながりで地域を元気に〜介護・年金・地域生活のこれから〜」についてお話を聞きました。

介護について 横須賀の高齢化率（65歳以上の割合）は全国平均より高く、逆に介護保険料（平均6100円）で全国平均より安いとのこと。

年金について 若い世代から、将来貰うことが出来ないと不安があるという意見に対し、給与所得・年金所得は物価スライドで年額改



講師 西村 淳氏

定するため、心配する必要はないと思われる。

これからの地域生活では、自分のできることは自分でやる。出来ない場合は、遠慮なく地域の方に助けをお願いして、地元で安心して生活が送れるようにしていきたいでしょうと、結ばれた。（事務局 宇津木）

根岸学区歩こう会

10月5日、根岸学区体育振興会の主催で「歩こう会」に32名の参加があり、千代ヶ崎砲台を目指して出発しました。

この日は秋風の心地良いお天気の中、根岸第四公園から久里浜湾を経由して、千代ヶ崎砲台までの約7キロを2時間かけて歩きました。

途中から日差しが強くなりましたが、皆さんとおしゃべりし、景色を眺め、海の香りを感じて歩き続け、最後に急な坂道でしたが、砲台跡からは東京湾が一望できて景色が最高でした。また、栗ご飯も！



砲台跡

三浦半島には32か所の砲台があります。千代ヶ崎砲台は、猿島と共に「国の指定史跡」となっているそうです。

スタッフの皆様、大変ご苦勞さまでした。来年はこの場所とコースを歩くのが楽しみです。（広報部 Tori）

広報部会研修会

文明堂印刷(株) 見学

10月20日、広報紙「ふれあいおおつ」の印刷製本をずっと依頼してきた会社を見学してきました。

わたしたち部会員12名は、ワードというソフトを駆使して原稿紙面づくりに苦勞するのですが、ここでは異なるソフト体系に写し直

していると知りました。それでもっと細かい注文に対処できるようです。

また、きれいに印刷された写真も拡大すると細かい粒子でできていることがわかりますが、今回借りた25倍という拡大鏡では、さらにミクロの世界が広がっており、目を見張りました。（広報部会 O）



文明堂印刷(株) 工場 (1F)

自主防災組織勉強会

11月5日 大津地区連合町内会主催で「これからの避難所運営について」男女共同参画の視点から」というテーマで市長室危機管理課に講演をお願いした。

- 避難所での「被災者の声」**
- ・ プライバシーが守られていない
 - ・ 食事作りがいつも同じ人が担当していて、負担となっているなど

このことから平時から男女が共に参画する防災活動・訓練を実施し、備蓄品や防災器材選びは様々な人の視点を反映することが大切であることを学んだ。

【まとめ】 多様な人々に配慮できるように、避難所の空間利用や運営を考える



ひとり暮らし高齢者交流会

高齢者福祉部会

9月11日 参加者140名

猛暑・酷暑と言った言葉を聞かない日はなかった毎日、一体地球はどうなってしまうのだろう、成り立ちを知っておこうと今回は、小田原の「生命の星・地球博物館」へバス4台で出かけました。
各集合場所から8時、バスに乗車。10時半に到着し、三々五々自由見学をしました。



バスの車内では
会話が弾み…
車窓からの「江の島」



入館者を
「熊の剥製」が
お出迎え



正・昭和初期の時代に高いところからの視点で名所旧跡が押し画で表現されていて楽しめました。ミュージアム・シアター



入口ホールでは、とても大きなアラスカヒグマの剥製を迎えられました。
特別展では、「神奈川県鳥瞰図」の展示で、航空機が一般的ではなかった大



かまぼこの里で
お昼ごはん



かに展示されていて、中でも蝶の美しさには見とれてしまったというお声も聞かれました。「宇宙と地球に興味を持っていたのでもっとじっくり見たかった。また来よう」という感想も。

知識を詰め込み、お昼は、かまぼこの里で金目鯛の炙り御膳をいただき、かまぼこやちくわ、まんじゅうなどお土産を買い、オープンしたばかりの道の駅「湘南ちがさき」でお買い物。県内各地で豪雨だという中、雨にもあわず楽しい一日を終えました。
(高齢者福祉部会 貫)

障がい者福祉部会研修会

9月13日障がい者福祉部会の部会員研修として、24名の参加者による車いす講習会を大津コミセンにおいて実施しました。

はじめに車いすの基本的な操作などの説明を受けてから、二人一組になりエレベーターやスロープでの実習を行いました。

今回はスロープを前向き・後ろ向きで試してみました。乗っている人は「前向きで下りる時は怖かった」「どちらでも怖くなかった」との声がありました。操作している人は「前向きで下りる時には力を入れないとスピードが出てしまうようで大変だった」との感想がありました。



スロープを上ったり下りたり…

スロープや坂道などを下りる時はなぜ後ろ向きが良いのかということ、この体験を通して改めて学びました。

参加者の交流と
親睦を目的として…

バス旅行交流会

障がい者福祉部会

9月26日 参加者68名

障がい者福祉部会主催の交流会として、障がい者と付き添いの方々を対象に、2台のバスを連ねて東京めぐりを行いました。今回は障がいのある方15名と付き添いの方、地域の福祉関係者、そして運営に当たる社会福祉協議会の役員などが参加しました。見学先は、今年が昭和百年・戦後八十年とい

「昭和館」に到着…



バスを降り、「昭和館」の入口へ向かう

うことから、千代田区九段にある「昭和館」をメイ



ンに計画しました。

当日は、絹のよう美しい雲が青空の所どころに見られ、秋らしい天候でした。しかしながら、日中は三十九度を越す真夏日

になりました。

「昭和館」というのは、国民が経験した戦中・戦後の生活に係る歴史的资料・情報を収集、保存、展示し、その労苦を次世代に伝えるためにつくられた国立の施設です。

その展示物は、①昭和十年ごろから昭和二十年までの戦中の暮らし、そして②昭和二十年代から三十年代までの戦後の



1号車のみなさん



2号車のみなさん

② 戦後のくらしの展示は、復興から立ち直る過程が表現されており、多くのものが私たちの世代には懐かしく、幼い日の記憶をよみがえらせるものでした。

くらしについて、豊富な資料と映像、音声等によるものでした。

① 戦中の暮らしは、日中戦争、太平洋戦争という、国が総力を挙げて外国と戦う中で国民の日常生活です。教科書や子どもの遊びに至るまですべてが戦時色に染められていました。生活に必要な食糧や衣類などへの統制が敷かれる中、戦地に赴く兵士が無事に帰ることへの祈りがありました。東京大空襲や広島・長崎への原爆投下による「終戦」に至るまでの生々しい映像や音声により、当時の様子を知ることができました。

こうした資料を見学して、悲惨な結末を迎えた戦争の背景にあったものは何だったのか?なぜ戦争に至ってしまったのか?について、見学した一人ひとりの胸に重いテーマとして刻まれました。

①、②を通じて、国民生活の危機的な状況に遭遇したときに、日本人が相互協力のもとに立ち向かう気概と勤勉さを感じる事ができました。



二重橋をバックにみんな揃って「はい、チーズ!!」



次に車窓からの東京見学を楽しんだ後、皇居外苑にあるレストハウスでの食事にまりました。そして最後は、松の木が林のように植えられた庭園を見ながら歩いた先で、二重橋を背景に全員の集合写真を撮り、帰路につきました。(障がい者福祉部会 芳賀)

いきいきサロン

気軽に!
無理なく!
自由に!
楽しく!

日々を 生き生きと
暮らせる地域づくり!
お近くでやっています

馬堀海岸

シーハイツいきいきサロン
ふれあいきいきサロン
楽々会
馬堀海岸3丁目いきいきサロン
馬堀海岸4丁目いきいきサロン

走水

伊勢町らんらん
いきいきサロン
だべり場

大津町

なぎさいいきいきサロン
大津町3丁目いきいきサロン
ふれあいサロンことぶき会
ふれあいカフェ
5丁目サロン



馬堀町

東竹澤ふれあいサロン
矢之津クラブ
ふれあいサロン馬堀3・4



大人のぬり絵

根岸町

井田サロン
ねぎよんキララ会

桜が丘

どんぐりいきいきサロン
桜が丘2丁目いきいきサロン
ふれあい・いきいきサロン東映
ふれあいきいきサロン福寿草
友愛桜寿会

池田町

いきいきサロンひまわり
ふれあい広場
パルテールふれあいサロン



オセコを楽しむ



冬の俳句選

ふれあい広場



窓開ひて鳩の刻打つ文化の日
曲がり癖生かして活ける庭の菊
大見得を切つて弁慶菊人形
病む友の笑顔もらいし菊日和
誰とでも生きて行けよと秋の空
蒼き海風ぎて磯菊輝けり
風の磨きし空や今朝の富士
栗ひとつ乗せて季節のパフェとなる
さりげなく空き缶拾ふ十二月
物音にふるさと思う冬紅葉
あれそれで会話なりたつ日向ぼこ
町内に掛け声あれこれ餅を搗く
煤払い済みし大仏男前
おおいなるものに生かされ柚子湯かな
小児科の窓辺を点す聖樹の灯
窓拭きて碧空透かす年用意
落葉掃くうしろさがりに巫女二人
踏切の警笛長し年の暮れ
歩を速め我を越し行く年の暮

洋子
玉水
初子
喜美子
詩一
千穂子
澄子
智美
敬子
正次
京子
晴女
安子
昭
安子
疎人
鏡子
みのる
和江
好治

横須賀俳句協会会報より

認知症カフェ (オレンジカフェ) は 希望が広がるための場所です



【認知症カフェ (オレンジカフェ) はどんな場所】

認知症の人やその家族、地域住民、介護や福祉などの専門家など誰でも、気軽に集える場所です。

訪れることは自由で、帰ることも自由です。お茶だけでもよいのです。

また、認知症カフェという名称ではなく、オレンジカフェ等様々な名前で運営されている場合があります。いずれにせよ、介護保険制度や地域の社会資源をよく知る専門家などが関わっています。

介護ストレスの軽減の場だけではなく、あらたな出会い、地域とのつながりの場です。

さあ、気楽な気持ちで一度訪れてみましょう。

【厚生労働省HPより抜粋】

なぜオレンジ色なの？

柿右衛門の赤絵陶器が海外で高く評価され、日本の認知症支援活動も、世界中に広まってほしいとの願いが込められています。

大津の地域内では、こんな活動が始まっています。

シャロームカフェ ホルトノキ

皆さん身の回りの事や心配事などで盛り上がり、笑い声や話し声が絶えません。「認知症啓発」や「認知症を学ぶ」時間よりも、参加者同士でつながる時間を大事にしたいと考えています。



ホルトノキのつながりが、1ヶ所から2ヶ所、3ヶ所と広がっていくことが大事だと考えています。

今後もシャロームと高齢者福祉部会の皆様と支え合いながら活動していければと思っています。お気軽にいらして下さい。

- ・場所：シャロームひろば (大津町2-15-3 京急大津駅前)
- ・毎月第3日曜日 14:00~15:30 参加費100円



オレンジカフェ フローラ・モンTon

認知症のことでお悩みの方、認知症に関心をお持ちの方
ピアノ演奏を聴いたり、ゆっくりとお喋りしませんか

- ・場所：Space and Cafe MonTon (スペースアンドカフェ モンTon)
馬堀町2-2-9雑賀ビル1階 馬堀海岸駅 徒歩4分
- ・不定期 2か月に1回 13:00~16:00 ワンドリンク注文



人生100年時代

— 2025年問題 — 第6回(最終回)

高齢化社会に備える



5回にわたって高齢化社会への取り組みを「大津の見守り」として紹介してまいりましたが、いくつになっても住み慣れた町で元気に暮らしていくためには、私たち自身にも何らかの備えが必要です。「できるときに、できることを」で良いのですが、次のような行動や心構えを持つことで、今後訪れる超高齢化社会に備えることが良いと思われま

支え合い・お互い様の心・スモールアクション・適度なおせっかい

ゴミ出しや買い物などちょっとした困りごとのお手伝いをしたりされたり、ご近所が支え合う気持ちを大切に、「お互い様の心」で小さくても出来ること(スモールアクション)や適度なおせっかいをすることで、安心して暮らせる明るく住みやすい町づくりに貢献することが必要でしょう。

通いの場・社会参加

通いの場、例えば「ふれあいいいきサロン」などの茶話会、カラオケや麻雀などの趣味の会、ラジオ体操やポッチャなど健康の会等々、また近所の人と話す、友人に会うなども含めて、地域の行事や活動に参加することが健康寿命を延ばします。



地域の顔見知りを増やす・「金持ち」より「人持ち」になろう

通いの場に参加することにより突発時や災害時にも互いに助け合えるように、地域の顔見知りを増やしておきましょう。

まだ私たち高齢者にも出来ることがある

私たち一人ひとりが「地域資源」という認識を持つ。人にしてもらおうより、人にしてあげるほうが嬉しいし幸せ。人の役に立ち、少しでも周りに幸せを分けられる存在を目指そう。小さくてもできる活動をしよう。私たちみんなで手を取り合って。

大津地区社会福祉協議会 会長 嶋口 司

おおつボラセンだより



ボランティア活動を試してみませんか?

- ・施設で手芸の指導ができる方
- ・絵手紙を教えてください
- ・洗濯たたみのお手伝い等々要望は多岐にわたっています

上記以外にボランティアに興味のある個人・団体の方も募集中です。

「車の貸し出し」について
無償にて貸し出し、期間は3か月まで可能
(3か月以上の場合は更新が必要です)

ボランティアセンターの開所日
月・木・金(祝祭日は除く)
開所時間 10:00~16:00



問合わせ先: 大津地区ボランティアセンター
Tel・Fax: 046(834)2487

ありがとうございます

社会福祉のために温かいご寄付をいただきました。
コーポ湘南大津 匿名様

「人間五十年、下天の内を比べれば夢幻の如くなり」織田信長が好んで謡った「敦盛」
この「人間五十年」は人生・寿命のことでなく、「人の世」の五十年は、天人の住む下天では一昼夜にすぎない虚しいものという無常観を表わしているそうです。
ところで、サザエさんのお父さん波平さんは放送開始の昭和45年頃の設定では54歳、当時の平均寿命(余命)は70歳の手前、それが令和6年では81歳となり、更に「人生百年時代」とも言われるようになったことを思うと戦国時代どころか戦前までの「人生50年」に比べ、余生の時間もずいぶん長くなったものです。

編集後記

でも、長寿を喜ぶのは健康であってこそ。「平均寿命」より約10年も短い「健康寿命」をどう伸ばすか、「如何に100歳まで元気に過ごすか」は我々自身の課題です。
葛飾北斎(享年90歳)は、死の直前に「あと10年の寿命があれば真の絵師になれるのに」と言い残したそうです。北斎の寿命は全て「健康寿命」だったようです。
今年(2025年問題)の後期高齢者となる「2025年問題」の年、今後に向けて「地域包括ケアシステム・2025年問題への対応」を振り返る必要があります。
(広報 Y・S生)